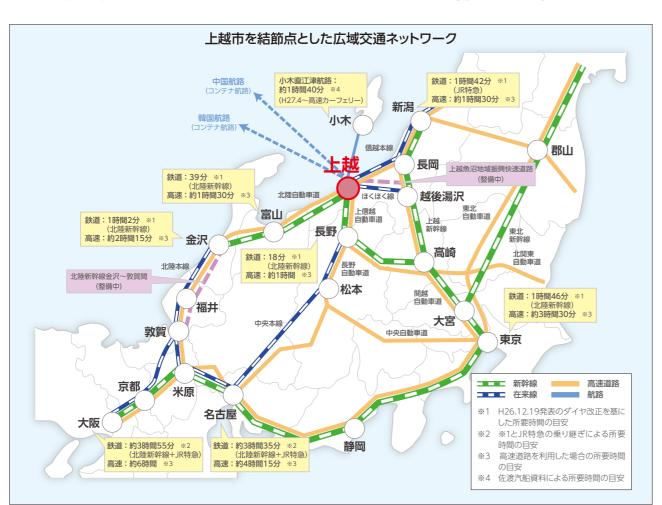
第 2 章

上越市の将来展望



1 まちの総合力の強化

- ○当市は、日本海側の広域交通網の結節点に位置しており、上越地域の中心都市として、産業基 盤が整い、商業施設、福祉・医療機関、教育機関等が集積し、近隣の他市の住民に対しても就 労、買物、学業、福祉・医療等の場を提供しています。
- ○また、基盤整備が進んだ農地、日本海の豊かな漁場などを有し、高い食糧生産力を誇るとともに、 豊かな自然に囲まれながらもインフラ1整備が進んだまちとして、高い居住性を有しています。
- ○さらには、まちづくりの主役である市民の活躍の場として、町内会をはじめ住民組織やNPO 等の多様な団体が存在し、さらに、地域自治区制度2の導入と地域協議会4の設置により、地域 の声を市政に反映する仕組みが整い、地域の活力向上や課題解決に向けた主体的な取組が進め られ、特色ある地域づくりの活動も生まれています。
- ○このように、当市は、市民生活に不可欠な生活基盤が高い水準で備わっているとともに、まち づくりの原動力となる市民活動の下地が整った総合力の高いまちであることから、こうした備 わった力を十分に発揮することにより、目まぐるしい社会経済情勢の変化や全国的に進む人口 減少の中にあっても、自立したまちとして発展していくことが可能であると考えます。



- ○第1章でみてきた今後の各分野での政策・施策展開に重大な影響を及ぼす三つの共通課題への 対処は、いわば「守り」への備えを強固にする取組となりますが、従来以上に当市が有する 様々なまちの力を最大限にいかした「攻め」の政策・施策を展開していくことも、今後のまち づくりを進める上で重要となります。
- ○行政による各種の取組とともに、多くの市民が関わり主体的なまちづくりを展開していくこと により、当市の優位性や潜在力が高い分野の成長を促し、更にまちの総合力を高め、上越地域 の中心都市としてのみならず、より広い圏域の住民に対しても求心力を発揮するまちとして更 なる発展を遂げていくことが可能となります。

上越市の多様なまちの力



2 潜在するまちの力の活用

- ○古くから地域に根付き受け継がれ、地域の資源や技術を結集した発酵食品をはじめ、米、新鮮 な魚介類、上越野菜、くびき牛や6次産業化6に取り組む農業者、加工業者等による加工品は、 北陸新幹線の開業により広がる交流圏域からの来訪者に対しても、自信を持って提供できる品 質が備わっており、高質な食を提供するまちとして当市を発信することにより、交流人口の拡 大を図り、産業や地域の活力向上につなげられるものと考えます。
- ○また、当市では、長い年月をかけて彩り豊かな歴史・文化・伝統が築き上げられてきました。 その価値を、市民が再認識することで、地域への自信と誇り、愛着を高める拠り所になるとと もに、市外へ発信することで、当市の知名度の向上、交流人口の拡大を図る地域資源となる可 能性を秘めています。
- ○平成26年には、高田開府400年という節目の年を迎え、行政や市民、民間企業が総出となり、 地域の歴史・文化・伝統を再発見し、その魅力を磨き上げ、市外へ発信する取組が行われまし た。こうした取組を一過性のものとせず、今後のまちづくりにつなげていくことが重要です。
- ○平成27年春の北陸新幹線の開業により、これまで以上に当市への注目が高まる中で、「攻め」 の政策・施策を展開する絶好の機会を逸することなく、当市の魅力を強力に発信し、まちの価 値と市民生活の豊かさを高めていくことが可能となります。

|3|新たなまちの力の創出

- ○北陸新幹線の開業と合わせて、上信越自動車道の4車線化、小木直江津航路の高速化も決定し ていることから、今後、当市の広域交通拠点としての機能が一層強化することが期待されま す。これにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック参加選手の合宿会場・練習会場 の誘致をはじめ、来訪者の増加や交流人口の拡大に向けた新たな取組の可能性が高まり、まち のにぎわいの創出のみならず、医療や福祉、産業、教育等の様々な分野で生活の質の向上を図 る取組が一層展開しやすくなります。
- ○一方、北陸新幹線の沿線自治体等との新たな都市間競争が顕在化することも想定されますが、 当市への建設が決定した県立武道館、長野県をはじめ北関東や北陸方面からも集客が期待でき る新水族博物館など、新たな魅力となる都市機能8も最大限に活用しつつ、交通の要衝である 地の利を発揮し、人や物の流れの中心となっていくことが重要となります。
- ○また、直江津港周辺では、既に火力発電所やLNG基地5が稼動しており、今後、上越沖メタン ハイドレート⁷の開発などが実現すれば、エネルギー拠点としての重要性が一層高まる可能性 を秘めています。
- ○新たな都市機能の整備が進み、当市のまちの力を最大限にいかした「攻め」の政策・施策を展 開する絶好の機会を逸することなく、いかに市民が住みやすさを実感できるまちを築いていけ るかが課題となります。

北陸新幹線の開業

平成27年春の北陸新幹線の開業により、1時間以内に当 市に来ることができる圏域は、現在の6.8倍に相当する約 350万人、2時間以内では現在の3.7倍に相当する約3,500 万人になると見込まれ、交流可能圏域が関西、中京圏まで 大きく拡大することが期待されます。



▲ 新型車両E7系 (河澄写真事務所提供)

直江津港の利用促進

平成23年11月にLNG部門の日本海側拠点港⁹に選定さ れ、今後は、国内はもとより環日本海経済圏を見据えた国 際貿易港として、また、エネルギー港湾としての利用が期待 されます。また、広域調査により存在が確認された上越沖 メタンハイドレート7については、国が平成25年度から本格 調査に着手し、平成26年度には、掘削調査が実施されまし



県立武道館の建設

平成26年12月25日、新潟県が「新潟県立武道館(仮称) 基本計画」を策定し、上越市への建設に向けて整備事業が 進められています。



上信越自動車道の4車線化

平成24年4月、信濃町インターチェンジから上越ジャンク ション間の4車線化事業開始が決定し、同月より東日本高 速道路株式会社によって事業が進められており、平成30年 度には、全線4車線化が実現する予定となっています。4車 線化の実現により、安全で快適に走行できる高速道路ネッ トワークが形成されます。



▲ 上越JCT (NEXCO東日本提供)

小木直江津航路の高速化

新造の高速カーフェリーが、平成27年4月に就航します。 これにより、小木・直江津間で片道60分の短縮が図られ、 1時間40分で結ばれ、1日2往復(最大3往復)の運航が可能 となります。今後佐渡観光の玄関口としての賑わいが期待 されます。



▲ 新造高速カーフェリーあかね (イメージ図提供:佐渡汽船株式会社)

新水族博物館の建設

楽しみながら学ぶことができ、まちを元気にする一大集 客施設として、平成30年春の開館を目指します。

